



# 日本国際教育学会

## JIES NEWSLETTER

February 2024 No. 35

### ニューズレター ダイジェスト

- 会長挨拶
- 第34回研究大会報告
- 第33回総会報告
- 2022年度決算報告及び2023年度予算
- 2022年度国際研究交流会報告
- 『国際教育』第30号原稿募集
- 第35回研究大会のご案内
- 2023年度国際研究交流会のご案内
- 2023年度日本国際教育学会役員一覧
- 事務局からのお知らせ



第34回研究大会(関西大学)



## 会長挨拶

### 学会の未来に願いを託して

第 33-34 期会長

佐藤千津（国際基督教大学）

ようやく新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、学会も通常の運営体制に戻りつつあります。今年の研究大会は 35 回、紀要は 30 号を数え、また一つの節目を迎えます。充実した学会活動を続けることができるのは会員の皆様のご理解とご協力のお蔭と存じます。心よりお礼を申し上げます。

昨年 9 月には赤尾勝己理事を大会実行委員長とし、第 34 回研究大会を初めて大阪で開催いたしました。美しい秋晴れの下、関西大学千里山キャンパスに集い、4 年振りの対面開催にかつての活気が戻りました。会場で再会を喜び合い、互いの近況や研究について語り合う参加者の姿が印象に残っています。

また、11 月に National University of Samoa にて開催された Oceania Comparative and International Education Society (OCIES) の第 51 回大会において、Zane Diamond 副会長らがアジア大洋州地域の複数の比較・国際教育学会と共同で“Establishing new relationships, understandings between CIE societies in Asia and Oceania”と題するラウンドテーブルを企画しました。この共同研究が進展すれば同企画のシリーズ化を考えています。

今年の活動としては、3 月に楊武勳理事を中心に国際研究交流会をオンラインで開催し、講師として台湾から国立暨南国際大学の Dr. Biung Ismahasan をお迎えします。ブヌン族出身の Dr. Ismahasan は現代アートのキュレーターやアーティストとしても活躍されており、台湾先住民族の教育と文化についてポストコロニアルな視点から考えます。

10 月には、小川佳万理事を大会実行委員長とし、第 35 回研究大会を広島大学で開催いたします。広島大学での開催は 2001 年 10 月の第 12 回研究大会以来、2 回目となります。今大会の実行委員会は、広島に加え、岡山や山口の大学に所属する会員で構成されており、会員層の広がりが感じられます。公開シンポジウムでは多文化保育、課題研究では SDGs などに関する興味深い企画が検討されていますので、どうぞご参加ください。

ところで、本学会紀要『国際教育』はこれまで学事出版より発行してきました。第 18 号から市販化し、学会の研究成果をより広く多様な読者に届けられるようになりました。諸般の事情により、第 30 号からは明石書店に依頼することになりました。紀要『国際教育』が創刊されたのは 1992 年 11 月のことです。創刊に際して松崎巖初代会長は、国際情勢の変化から生じる教育課題が多岐にわたる中、その解決に国際教育分野の研究と教育がいかに貢献できるかという問題を提起されました。30 年後の今日、世界の情勢はますます複雑化しています。持続可能な社会の未来へ向け、様々な課題をともに研究する場として本学会が存在し、その成果発表の場として紀要がますます充実することを期待します。記念すべき第 30 号への積極的な論文投稿をお願いいたします。

今もなお社会の平和と安定を脅かす動きが絶えず、心落ち着かない日々が続いています。一刻も早く世界中のあらゆる人々に平和と安らぎが訪れることを切に祈ります。また、これからの 1 年が会員の皆様にとって未来へと続く幸多き日々となり、学会にとっては更なる飛躍の年となることを願います。

## 第 34 回研究大会報告

### 第 34 回研究大会をふりかえって

第 34 回研究大会実行委員長  
赤尾勝己（関西大学）

私はこの日が来るのが正直怖かった。はたして何人の人に参加していただけるのかと、眠れない日もあった。しかし、蓋を開けてみると 9 月 30 日（土）と 10 月 1 日（日）の両日で 71 名の参加者を得ることができたことを、まずは素直に喜びたい。今大会では、学生の参加を無料としたことと、吹田市教育委員会から名義後援をいただいたことが、功を奏したといってもよいであろう。

1 日目午後の「公開シンポジウム」の参加者は 55 名、2 日目午前中の「課題研究」の参加者は 40 名であった。大会校の関西大学が企画した公開シンポジウム「外国人市民への生涯学習支援と多文化共生—関西地方の実践を中心に—」では、関西を代表する次の 3 名の報告者から、日頃の研究と実践の成果を報告していただいた。新矢麻紀子先生（大阪産業大学）「外国人のリテラシーの保障と補償に向けて—「生活の漢字」の取組から—」、山野上 隆史先生（公益財団法人とよなか国際交流協会）「ともに学ぶ場づくりの実践—とよなか国流の取組から—」、榎井縁会員（大阪大学）「自己実現のこぼれを育むために—大阪の枠校のとりくみから—」で、司会は私赤尾が務めた。日本各地で識字活動の研究や実践に携わっている会員からの質問と報告者からの応答が印象に残った。

2 日目午前の研究推進委員会が企画した課題研究「共生社会の実現と国際教育—多様な担い手の育成・確保の観点から—」では、栗栖淳会員（国士舘大学）の司会の下で、次の 3 名の会員からの報告をいただいた。吉田尚史会員（福岡女学院大学）「基準カリキュラムにおける共生・多様性と教員養成カリキュラム」、渡部孝子会員（群馬大学）「学校教育現場に求められる多様性の受容—外国につながる子どもの教育から—」、石井由理会員（山口大学）「共生社会における教師の役割—教員養成課程ができること—」である。この課題研究では、まず国民国家(nation state)という枠組みの中で、共生社会がどれだけ実現できるのかという問題意識が提起された。だがそうした制約のなかにあっても、学校教育現場や教員養成課程における国際教育の実践の可能性について考えることができた。そして、自由研究発表は両日にわたる 5 つの分科会で、合計 18 件の報告がなされた。

このように、今大会を無事に終えることができたが、当日までの道のりは平坦ではなかった。スタッフが体調を崩して準備作業が滞ってしまった時は、体調管理の難しさを痛感させられた。また、印刷所との意思疎通がうまくいかず、プログラムの現物の遅配および一部の会員に現物が届かなかった。このことについて心からお詫びを申し上げたいと思う。

最後に、大会事務局長を務められた田中潤一会員（関西大学）、同事務局次長を務められた木田竜太郎会員（関西福祉科学大学）、同幹事を務められた大谷杏会員（福知山公立大学）、今井貴代子会員（大阪大学）には準備段階から大会当日まで多大なご苦勞をおかけした。また、田中事務局長の下でご協力をいただいた大学院生の皆様にも心から御礼を申し上げたいと思う。まことにありがとうございました。

# 第34回総会報告

## 第34回総会議事録

開催日時：2023年9月30日（土）15時20分～16時10分  
開催場所：関西大学千里山キャンパス 第1学舎5号館 E-502

### I. 報告事項

1. 第34回研究大会の開催について
2. 2022年度（2022年8月1日～2023年7月31日）会務報告
  - (1) 学会（会員数）の現況【資料1】
  - (2) 2022年度活動報告【資料1】
  - (3) 2022年度決算報告【資料2】
3. 各種委員会等報告
  - (1) 紀要編集委員会【資料3】
  - (2) 学会賞選考委員会【資料4】
  - (3) 研究担当【資料5】
  - (4) 国際交流担当【資料6】
  - (5) ニュースレター担当【資料7】
4. 紀要の出版社変更について【資料8】
5. その他

### II. 審議事項

1. 2023年度（2023年8月1日～2024年7月31日）事業計画
  - (1) 2023年度活動計画（案）【資料9】
  - (2) 2023年度予算（案）【資料10】
2. 第35回研究大会の開催日程及び会場について【資料11】
3. 第35-36期役員選挙選挙管理委員の選任について
4. その他

### III. その他

- 資料1. 2022年度（第33期）活動報告（期間：2022年8月1日～2023年7月31日）  
資料2. 2022年度（第33期）会計報告（期間：2022年8月1日～2023年7月31日）  
資料3. 紀要編集委員会報告  
資料4. 学会賞・奨励賞選考委員会報告  
資料5. 研究担当報告  
資料6. 2022年度国際研究交流会実施報告  
資料7. Newsletter No.34の発行に關しまして（ご報告）  
資料8. 紀要『国際教育』の出版社変更について  
資料9. 2023年度（第34期）活動計画（案）（期間：2023年8月1日～2024年7月31日）  
資料10. 2023年度（第34期）予算（案）（期間：2023年8月1日～2024年7月31日）  
資料11. 第35回大会開催について

## 2022 年度国際研究交流会報告

国際交流担当理事  
Jeffrey Gayman (北海道大学)

2023年3月18日(土)14時より、“Two-way learning in Western Australia: successes, challenges, and opportunities”と題して、長期にわたり西オーストラリア州の校長や教師の現職研修に取り組んできた実務者である Patricia Konigsberg 氏にオンラインでご講演をいただきました。非会員を含め、延べ36人の参加を得て、約1時間半にわたり活発な討論がなされ、示唆に富む研究交流ができました。

先住民族出身の教師や生徒が多い西オーストラリア州では、異なる背景をもつ二者間の Two-way Bidialectical Learning を促す教員研修プログラムが実施されており、各学校の個別の実態に即したカリキュラム開発も行われています。先住民族について学ぶという一方的な学習ではなく、双方にとって新たな学びと理解が得られ、それによって両者のリスペクトフルで持続的な関係構築を図るようなプログラムになっています。Konigsberg 氏による講演ではこの実践がオーストラリア全土に広がりつつある状況についての説明もありました。また、当日は Konigsberg 氏の誘いにより、同氏の長年の研究仲間にもオーストラリアから質疑応答に飛び入り参加していただくことにより、関連する政策や研究についてより多角的にアプローチでき、大変充実した時間になりました。多文化教育について理解を深めることができました。

## 『国際教育』第30号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第30号(2024)の発刊に際し、自由投稿の研究論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします(2024年3月1日必着)。

原稿の投稿に関しましては、本学会公式ウェブサイト(<https://jiesofficial.com>)の「学会紀要」のページで最新情報をご確認ください。会員の皆さまの積極的な応募をお待ちしております。

CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 30

Submissions to the 30th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2024. Authors making submissions in English should review the Additional Guidelines for English Manuscripts. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (<https://jiesofficial.com>) before submission.

## 第 35 回研究大会のご案内

大会実行委員長 小川佳万（広島大学）

2024 年の第 35 回研究大会の実行委員長を務めさせていただきます小川佳万です。今回広島大学が担当させて頂くことになりましたが、大会は私小川に加えて、事務局長の中坪史典（広島大学）、事務局次長の黒木貴人（福山平成大学）、実行委員の石井由理（山口大学）と内田直義（就実大学）（敬称略）の 5 名を中心に運営されます。開催日は、2023 年 10 月 5 日（土）から 10 月 6 日（日）の 2 日間です。開催場所は、教育学部の所在する東広島キャンパス（東広島市鏡山 1-1-1）です。このキャンパスは都会の喧騒から離れた郊外に位置しており、交通の便は必ずしも良いとは言えませんが、その静寂さが皆様にご満足いただけることと信じております。広島大学教育学部は、1874 年白島学校、1902 年広島高等師範学校、1929 年広島文理科大学等を前史にもち、幼稚園教員から大学教員の養成まで、すべての教育段階のすべての教科の教員を養成している教育学部です。ここでみなさまとともに国際教育について議論できますことは大いなる喜びです。我々実行委員一同は大会を盛り上げるために全力を尽くす所存でございますので、多くの会員のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

## 2023 年度国際研究交流会のご案内

### **Can Indigenous Art be a tool for Educational Turn?**

**Analysis of Education Aesthetics on Indigenous Cultural Policy  
and Curatorial Practice in Taiwan and Beyond**

〈趣旨〉

多文化・他民族社会である台湾において先住民族の政治権力・権利・文化をめぐる政策は時代の変化とともに進められています。そうした中、先住民族の文化に対する異なるグループの認識ないし再認識を促すため、政府や文化関係者は教育・文化面に力を入れています。特に、先住民族芸術文化の企画展において「キュレーション」は特定の文脈から特定の作品を観客に紹介する、という教育的機能を有することが重要になります。

そこで本交流会では国立暨南国際大学の Biung Ismahasan（彼勇・依斯瑪哈單）助理教授を迎え、先住民族に関わる芸術イベントはどのような政治的な示唆や、社会的・教育的インパクトをもたらすのかを論じていただきます。具体的には、台湾先住民族の文化政策のジレンマを検討し、1990 年以降の先住民族の文化政策と企画展の発展や、先住民族間の交流と協働の事例を紹介します。その上で先住民族政策に関わる教育的・文化的な論点について議論し、日本など他の国・地域への示唆を得たいと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時：2024年3月9日（土）14時～15時30分（JST）  
オンライン（ZOOM）

参加申込：本学会会員の皆様は申込不要です。会員以外の方は2月29日（木）までに以下の学会ウェブサイトから参加申込をお願いします。開催前日までにご登録いただいたメールアドレス宛にZoomの情報をお知らせします。

日本国際教育学会（Japan International Education Society）  
<https://jiesofficial.com>

〈参加申込フォーム〉

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSer3vG6yiq7zAcz2dDptGEIkF2GMHvNm35pgmRBPUwNaQGd-g/viewform>



参加費：無料

言語：英語（通訳なし）

問い合わせ先：楊 武勳（国際交流担当理事）

whyang■mail.ncnu.edu.tw

■を@に置き換えてください

## 2023年度 日本国際教育学会役員一覧

### 理事会

役職	氏名	所属	担当
会長	佐藤 千津	国際基督教大学	—
副会長	Zane Diamond	Monash University	—
理事	赤尾 勝己	関西大学	研究大会（第34回）
同	岩崎 正吾	首都大学東京（名誉教授）	規程
同	呉 世蓮	関東学院大学	事務局（総務）
同	太田 浩	一橋大学	組織
同	大谷 杏	福知山公立大学	Newsletter
同	小川 佳万	広島大学	研究大会（第35回）
同	栗栖 淳	国士舘大学	研究
同	Jeffrey Gayman	北海道大学	国際交流
同	澤田 敬人	静岡県立大学	紀要
同	下田 誠	東京学芸大学	規程
同	玉井 康之	北海道教育大学	組織、学会賞
同	新関 ヴァッド 郁代	産業能率大学	事務局（広報）

同	服部 美奈	名古屋大学	学会賞
同	平山 雄大	お茶の水女子大学	事務局（事務局長）
同	前田 耕司	早稲田大学	リエゾン
同	吉田 尚史	福岡女学院大学	研究
同	楊 武勳	国立暨南国際大学	国際交流

### 事務局

役職	氏名	所属
事務局長	平山 雄大	お茶の水女子大学

### 会計監査

役職	氏名	所属
会計監査	栗田 梨津子	神奈川大学
同	若園 雄志郎	宇都宮大学

### 各種委員会

役職	氏名	所属
紀要編集委員会 委員長	澤田 敬人	静岡県立大学
同副委員長	渡部 孝子	群馬大学
同委員	阿部 恵	函館工業高等専門学校
同	石井 由理	山口大学
同	新見 有紀子	東北大学
同	田中 達也	釧路公立大学
同	寺野 摩弓	国際協力機構・立命館 APU 非常勤
同	三輪 千明	広島大学
同幹事	我妻 鉄也	千葉大学
学会賞選考委員会 委員長	玉井 康之	北海道教育大学
同副委員長	太田 浩	一橋大学
同委員 (紀要編集委員兼任)	渡部 孝子	群馬大学
同	岩崎 正吾	首都大学東京 (名誉教授)
同	小川 佳万	広島大学
同幹事	羽谷 沙織	立命館大学
第 35-36 期役員選挙 選挙管理委員会 委員長	佐々木 亮	聖心女子大学
同委員	秋庭 裕子	東京学芸大学
同	上野 昌之	東洋大学
同	劉 阳	産業能率大学



## 事務局からのお知らせ

### 1. 事務局メールアドレス変更

2024年1月より事務局のメールアドレスが新しくなりました。お問い合わせ等は下記の新メールアドレスのほうにお願いいたします。

旧 jies\_jimukyoku■jies.gr.jp

新 jies.office■gmail.com

■を@に置き換えてください

### 2. 連絡先・ご所属の変更に関して

ご所属の変更等に伴い会員資格や連絡先に変更がある方がいらっしゃいましたら、事務局までメールにてご連絡ください。

### 3. 会費納入のお願い

2023年度（2023年8月1日～2024年7月31日）の会費を未納の方は、ご納入くださるようお願い申し上げます。

〈納入先〉

郵便振替口座名義：日本国際教育学会

口座番号：00130-7-124562

ゆうちょ銀行 〇一九 店（ゼロイチキョウ店）当座 0124562

### 4. 新入会員紹介

会員限定公開コンテンツにつき、非掲載とします。

日本国際教育学会 Newsletter No. 35

編集発行 日本国際教育学会 代表 佐藤千津

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1  
お茶の水女子大学グローバル協力センター  
発行所 平山雄大研究室気付  
[jies.office@gmail.com](mailto:jies.office@gmail.com)  
<http://www.jiesofficial.com>

発行年月日 2024年2月20日